

4. 木質燃料の生産 (7)

日本への主要輸出国カナダの木質ペレット生産と利用実態

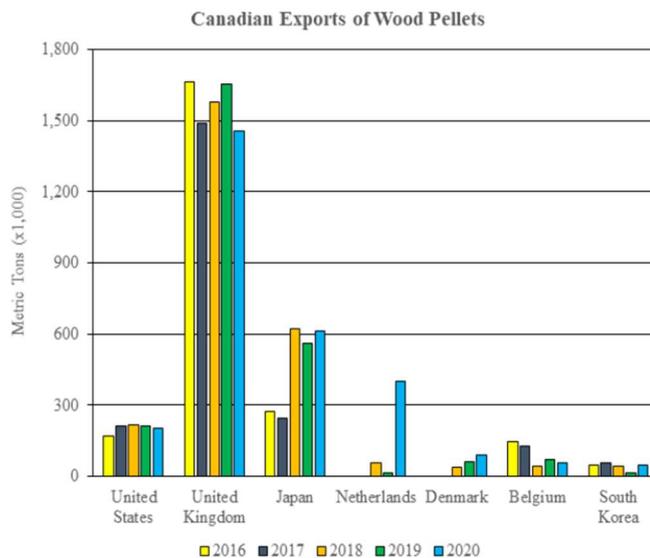
カナダは米国に次いで世界第 2 位の木質ペレット生産国で、2020 年の統計では生産量 350 万 t/年で前年ストックを含めた 426 万 t の 7 割近くの 290 万 t が輸出され、自国消費は約 1 割の 43 万 t と少ない¹⁾。

カナダのペレット生産工場は 2021 年の集計で 48 工場 (0.3~40 万 t/年/工場)、総生産能力は 495 万 t/年、工場平均 10.3 万 t/年となっている。工場はカナダ西部と東部に偏在し、西部は針葉樹主体の 18 工場 (約 18 万 t/工場)、東部は針・広葉樹混じりの 26 工場 (約 6.7 万 t/工場) で、生産規模としては西部の方が大きい²⁾。

ペレット原料は製材残材のおが粉や鉋屑が主体である。しかし西部では 1990 年代に始まったカブトムシにより大規模な森林被害を受け、製材工場の閉鎖などの影響で被害木を含む丸太利用が進みつつある。

自国消費が少ないことについては、家庭用では化石エネルギーとの価格競争に加えて、都市部では天然ガスの供給パイプラインが各住宅に接続されていること、さらに小規模ボイラの輸入がカナダ規格協会から承認されていないことも原因している。産業用ペレットについては、2030 年までの石油火力発電所の段階的廃止政策によりペレットへの転換が始まっており、今後この分野での大幅なペレット需要生まれることになる。

ペレットの輸出量は年々増大している。最大の輸出国はイギリスで、日本、オランダと続いている (図表 4.8)。西部生産のペレットは西海岸からパナマ運河を經由して欧州に輸出されていたが、とくに日本への輸出の本格化は輸送コストや輸送期間の短縮 (片道 17 日間) に好条件な市場となっている。



図表 4.8 カナダ産木質ペレットの輸出状況¹⁾

- 1) [DownloadReportByFileName \(usda.gov\)](#)
- 2) [Biomass Magazine - The Latest News on Biomass Power, Fuels and Chemical](#)